

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第42号

平成14年 7・8・9月



重要文化財 木造如意輪観音半跏像 石山寺

平常展

佛教美術の名品
7月23日(火)～
本館・東西新館

特別展

観音のみてら
石山寺
8月9日(金)～9月8日(日)
東西新館

特別陳列

西大寺古絵図は語る
—古代中世の奈良
9月14日(土)～10月6日(日)
東新館

石山寺

八月九日(金)～九月八日(日)

東西新館

◆主催 奈良国立博物館



木造如意輪觀音半跏像 法輪院

良弁僧正による開基と伝える石山寺（滋賀県大津市）は、琵琶湖から南流する瀬田川に面した岩山に所在しています。

この地は天平宝字三年（七五九）に造営を開始した保良宮の旧在地と考えられています。石山寺は保良宮との関わりのなかで、天平宝字五年（七六二）より拡張造営工事がおこなわれ、本尊としていずれも塑造の二臂丈六觀音像および二躯の神将形像が安置されました。これらは承暦二年（一〇七八）に火災に遭い、現在は断片のみ伝えられますが、罹災後の再興像は根本像の形制を踏襲し、

本堂厨子内に秘仏として安置されています。また金銅仏や經典など、創建当初の遺品は他にも少なくありません。

平安時代に入ると、石山寺は醍醐寺流の密教寺院に変貌し、学僧として名高い淳祐の来寺により、学問寺としての伝統を築いてゆきます。この時期の遺品としては、とくに仏像彫刻や密教図像、典籍が豊富にここられています。

また石山寺は西国三十三所の第十三番札所となり、觀音信仰の靈場としても多くの参詣者を集めました。

とくに貴族の女性の参籠が流行したらしく、紫式部が当寺で『源氏物語』を書きはじめたという伝説も、こうした背景によるものでしょう。

このような歴史を反映して、石山寺には古代から中世にかけての、南都仏教や密教、また觀音信仰に基づく優れた仏教美術作品が多数伝来しています。本特別展は、寺外初公開の作品を含め、これらを一堂に会する初めての試みです。本展を通じ、石山寺の歴史と伝統、ひいては日本の仏教美術のすばらしさを堪能していただければ幸いです。

《主な出陳作品》

◎木造如意輪觀音半跏像、◎銅造觀音菩薩立像、◎木造大日如來坐像(快慶作)、

◎木造維摩居士坐像、◎木造兜跋毘沙門天立像、◎木造毘沙門天立像(以上石

山寺)、木造如意輪觀音半跏像(法輪院)、
◎仏涅槃図、◎不動明王二童子像、◎釈



◎木造大日如來坐像(快慶作) 石山寺



◎II国宝 ◎II重要文化財

迦如来像 ▲校倉聖教図像▽、◎俱利迦羅龍剣三童子像 ▲校倉聖教図像▽、◎石山寺縁起絵巻、◎釈摩訶衍論、◎淳祐内供筆聖教△薫聖教▽、◎延暦交替式、◎仏說淨業障経△吉備由利願経▽、◎石山寺一切経、
◎銅鐸(以上石山寺)

古代中世の奈良 西大寺古絵図は語る

九月十四日(土)～十月六日(日) 東新館

- ◆主催 奈良国立博物館・東京大学文学部・真言律宗総本山西大寺
◆後援 日本経済新聞社 ◆協力 東京大学史料編纂所 ◆協賛 (株)飛鳥園



◎大和国西大寺与秋篠寺堺相論絵図 東京大学文学部

平城京の右京、東大寺と対称的な位置に當まれた西大寺は、奈良時代後期に称徳女帝によって創建された大寺です。平安時代にはたびたびの火災で衰えますが、鎌倉時代に収尊(興正菩薩)によって律宗寺院として再興され、今日に至っています。この西大寺には鎌倉時代に描かれた古代・中世の寺地に関わる絵図がまとまって伝えられています。これらの絵図は、古代・中世における奈良の景観を今に伝える貴重な史料として注目されてきました。近年の歴史研究では画像史料が重要な研究対象となっています。西大寺の絵図群に関しても、古代史・中世史・考古学・歴史地理学・仏教史など、各方面からの研究が進められており、その歴史景観が復元されつつあります。

それぞれの絵図を見つめると、古代・中世の歴史的世界が圧倒的な力で迫ってきます。多角的な最新の研究成果に触れていたときながら、絵図を通した過去との出会いを体験していただければ幸いです。

この展覧会では、現在は東京大学文学部と西大寺に分蔵されている西大寺の絵団群のすべてを初めて一堂に公開します。

西大寺三宝料田畠目録(以上西大寺)
西大寺敷地図(以上西大寺)
西大寺北条里図(以上東京大学文学部)
西大寺敷地図(以上東京大学文学部)
西大寺和国添下郡京北班田図(西大寺)
西大寺国西大寺寺中曼荼羅(西大寺)
西大寺古伽藍敷地并現存堂舍坊院図(東京大学文学部)
西大寺古伽藍絵図(西大寺)
西大寺敷地之図(西大寺)
西大寺古敷地図(西大寺)
西大寺敷地図(西大寺)
西大寺敷地図(西大寺)

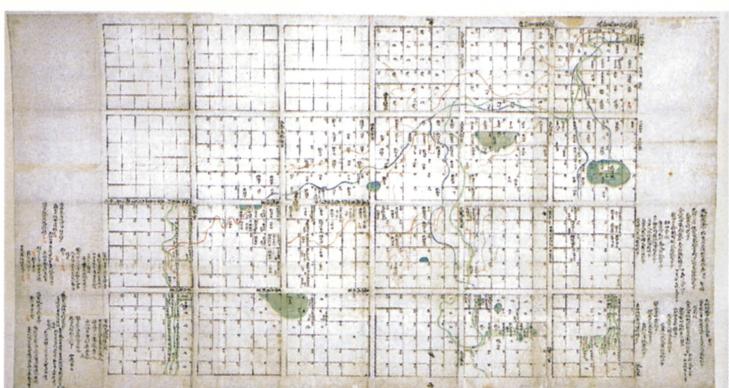
平常展 仏教美術の名品

本館 7月23日～ (彫刻)
西新館 7月23日～10月6日 (工芸・考古)
9月14日～10月6日 (絵画・書跡)

本館・西新館では仏教美術の名品を彫刻・工芸・考古・絵画・書跡の各ジャンル別に展示します。特別展の開催中も、本館のみの観覧を希望される場合は平常展料金で入館できます。



春日龍珠箱(外箱)
当館



◎大和国添下郡京北班田図 西大寺

展示評

特別展『東大寺のすべて』を振りかえって

井上 一稔（同志社大学文学部助教授）

「外からみる奈良博」



月光菩薩像の搬出風景

編集部から特別展の辛口批評をとの依頼があり、辛口はなかなか難しいのですが、と言いながらお引き受けした。そこで、筆者が勤める同志社大学の博物館実習受講生達（3・4年生を中心の約140人）に、特別展見学後にアンケートで、悪い点として多かった意見を整理してみてはどうかと思つた。このまとめは最後に述べるとして、まずは本展のもつ多様な意義のうち、わたしの考える三点を指摘しておきたい。

一つ目は、今日までの東大寺に関する研究および展覧会の総括としての意味を持つという点。これは本展の8章にわたる構成が美術・歴史・宗教・民俗といった各分野に及んでいることから分る。また、昭和55年に大仏殿の昭和大修理落慶を記念した「東大寺展」（奈良国立博物館のほか4ヶ所で開催）と比較して、この間の22年に行われた南大門仁王像の解体修理や境内各所の発掘などで発見された品々が展示されていることでも理解できよう。

二つ目は、法華堂伝日光・月光像および戒壇院四天王像という塑像群の移動展示をされたこと。わが国でこの規模の展示はかつて無いことに伝日光・月光像に関しては、いつの時代にか法華堂に安置されてから第二次大戦中には他の乾漆像と同じく疎開計画はあったものの実行に至らなかつたので、これまで堂から動いたことのない像と考えられる。そして脆弱な塑像ということを考えても、極限の展示といえるのである。ゆえに、もし「文化財移動史」なるものが書かれるとしたら、本展は特筆されるべき事例となるであろう。

三つ目は、別会場として東大寺法華堂の執金剛神像を特別開扉されたこと。従来から考えられていた展示方法とはいへ、実際に行われた例はなかなか聞くことがない。その中にあってさらに、執金剛神像の厨子の前に通路を特設し、展示場と連携するごとく、間近で明るく拝見できるという実に効果的な方法を考案されていた。ただ本会場内では執金剛神像に関する展

示はみられず、地下通路のパネルや図録を見なければ関係がわからないという点は惜しまれた。

さて最後に学生達の意見から得られた本展のマイナス評価をまとめて記しておきたい。設備では、トイレや休息場所が少ないという意見に集約できた。これは展示面で目立った出陳点数が多すぎるという意見に関連しよう。大規模展示で見るのに長時間をするからだ。展示面では他に、動線が複雑で混乱したという意見も多かつた。壁付きケースと独立ケースの見学順序をいうのである。動線問題は、本館との関連が分りづらかつたとか、のぞきケース内で順路が逆になる所があつたなどの意見にも及んだ。フロアープランの配布が必要だと、解決策に繋がる指摘もあつたことを申し添える。また少數ながら展示位置が高く、身障者的人には見づらいのではという意見もあつた。その他、展示に单调な部分があつたとか、会場の照明が暗かつたという意見も比較的多かつたが、それよりも多数を占めたのが説明が難しいということである。古美術展示の宿命とも言えるものだが、工夫は望まれる。

以上、これらの意見が今後のより良い展示に役立つことを願いつつ、本展で感動を与えてくれた関係各位のご尽力に心から敬意と感謝を表して終わりたい。



展示風景

特別展

「觀音のみてら 石山寺」

8/9～9/8 東西新館



◎木造維摩居士坐像 石山寺



◎仏涅槃図 石山寺



◎袈裟欄文銅鐸 石山寺

【絵画】

◎石山寺縁起絵巻、◎仏涅槃図、◎不動明王二童子像・十羅刹女図・天川弁才

天曼荼羅、良弁僧正像・弘法大師像、◎

石山寺校倉聖教のうち胎藏界三昧耶曼荼羅・胎藏界三昧耶敷曼荼羅・蘇悉地手契図・仏眼種子曼荼羅・枳迦如來像・

不動明王三童子像・坐像・不動明王二童子像

二童子像・立像・不動明王二童子像

△玄朝様・不動明王頭部図・俱利迦羅龍劍三童子像・妙觀察智法・法性寺円堂炉壇様・壺図・念珠図(以上石山寺)

【彫刻】

◎木造如意輪觀音半跏像(石山寺)、木造如意輪觀音半跏像(法輪院)、塑像断片、◎銅造釈迦如來坐像、◎銅造觀音菩薩立像、◎木造維摩居士坐像、◎木造大日如來坐像、◎木造大日如來坐像(快慶作)、木造大日如來坐像、◎木造不動明王坐像、◎木造兜跋毘沙門天立像、◎木造毘沙門天立像、◎木造持國天・增長天立像、木造阿彌陀如來坐像、木造地藏菩薩立像、木造南無佛太子立像、木造追儻面(以上石山寺)

【書跡】

◎漢書「紙背に金剛界念誦私記」、◎史記卷第九十六・九十七残巻「紙背に

金剛界次第」、◎玉篇卷第廿七後半「紙背に護摩科文六種」、◎春秋經伝集解解

卷第廿六残巻「紙背に四分戒本」、◎春秋經伝集解卷第廿九残巻「紙背に

真言儀軌」、◎積摩訶衍論、◎淳祐内

供筆聖教「薰聖教」、◎延曆交替式「紙

に伝三昧耶戒私記」、◎周防国玖珂郡

玖珂郷延喜八年戸籍殘巻「紙背に金

剛界入曼荼羅受三昧耶世界界行儀」、

◎仏說淨業障經「吉備由利願經」、◎十誦律卷第五十二「称德天皇勅願經」、

◎大般若經音義中卷「說一切有部俱

舍論」、◎法華玄賛義決、◎不空三藏表

制集卷第三、「法華義疏」、◎俱舍論記・

俱舍論疏・俱舍論頌疏、◎本朝文粹零本、

○觀山大師伝、◎智證大師伝、◎行歷抄(円珍記)、◎建久年中檢田帳、◎石

山寺一切經のうち10点、◎石山寺校倉聖

教のうち4点(以上石山寺)

【工芸】

金銅宝塔、水晶製五輪塔、扁額、金銅密教法具「光子内親王施行」、金銅密教法具、金銅戒体箱、金銅柄香炉、金銅如意、水晶製念珠(以上石山寺)

【工芸】

金銅宝塔、水晶製五輪塔、扁額、金銅密教法具「光子内親王施行」、金銅密教法具、金銅戒体箱、金銅柄香炉、金銅如意、水晶製念珠(以上石山寺)

【工芸】

金銅宝塔、水晶製五輪塔、扁額、金銅密教法具「光子内親王施行」、金銅密教法具、金銅戒体箱、金銅柄香炉、金銅如意、水晶製念珠(以上石山寺)

【工芸】

金銅宝塔、水晶製五輪塔、扁額、金銅密教法具「光子内親王施行」、金銅密教法具、金銅戒体箱、金銅柄香炉、金銅如意、水晶製念珠(以上石山寺)

【考古】

○袈裟欄文銅鐸、尊賢僧正取集古瓦、古瓦譜(尊賢筆)(以上石山寺)

学史料編纂所)、◎大毗盧遮那佛變加

持經「吉備由利願經」、興正菩薩像(以

上西大寺)、西大寺出土瓦、西隆寺出土

土銅印(西大寺)、称德天皇山莊跡出土

品、平城京大内裏跡坪割の図(北浦定

政)(以上奈良文化財研究所)、平城京及大内裏考(関野貞)(東京大学)

「仏教美術の名品」

7/23～ 本館・東西新館

主な出陳品

【工芸】 「西新館北」 7/23

◎金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺)、

◎五輪塔嵌装舍利厨子(不退寺)、9/1～、◎三角五輪塔(淨土寺)、9/3～、

◎首懸駄都種子曼荼羅厨子(當館)、9/1～、◎首懸駄都種子曼荼羅厨子(當館)、9/3～、

V 西大寺古絵図が語るもの

◎西大寺寺中曼荼羅、南都西大寺中古伽藍図(以上西大寺)、◎西大寺古伽藍敷地并現存堂舍坊院図(東京大学文学部)、◎大和国西大寺伽藍絵図(西大寺)、

◎大和国西大寺敷地図、◎大和国西大寺敷地図、

◎大和国西大寺敷地図、◎大和国添下郡京北条里図(以上東京大学文学部)、

◎大和国添下郡京北班田図(西大寺)、

主な出陳品

【工芸】 「西新館北」 7/23

◎金銅火焔宝珠形舍利容器(海龍王寺)、

◎五輪塔嵌装舍利厨子(不退寺)、9/1～、

◎首懸駄都種子曼荼羅厨子(不退寺)、9/3～、

平常展

「仏教美術の名品」

9/8～9/23 本館・東西新館

◎薬師如來坐像(談山神社)、中國古瓦(9/8～9/23)、◎佐井寺僧道

◎鍍銀経箱(藤原道長願経)、◎青磁鉢(正暦寺)、

◎金峯山経塚出土品(談山神社)、中國古瓦(9/8～9/23)、

I 西大寺の歴史とその伽藍

「西大寺古絵図は語る」

9/14～10/6 東新館

◎西大寺古絵図(西新館北)、◎西大寺古絵図(西新館北)、

◎西大寺古絵図(西新館北)、◎西大寺古絵図(西新館北)、</p

奈良県

天神山古墳出土品 重要文化財に指定

天神山古墳は奈良県天理市柳本町の伊射那岐神社境内の東方に所在する全長三〇メートルの前方後円墳で、東には崇神天皇陵に当たられる行灯山古墳が、北西には三十三面の三角縁神獸鏡を出土した黒塚古墳が存在し、いずれも柳本古墳群に属しています。天神山古墳は昭和三十五年（一九六〇）に発掘調査が行われ、後円部頂部のほぼ中央部に位置する堅穴式石室の中から大量の朱を含む木櫃と、その周囲から二十三面の鏡や、多くの鉄製刀劍類などが出土し、現在は奈良国立博物館に所蔵されています。銅鏡の内訳は、方格規矩鏡六面、圓形鏡三面、画像鏡二面、獸帶鏡三面、角縁変形神獸鏡二面、人物鳥獸文鏡一面からなります。天神山古墳の年代は四世紀後半ごろとされていますが、これらの鏡の中には前期古墳でよく出土する典型的な角縁神獸鏡が含まれず、後漢時代の方格規矩鏡や、内行花文鏡を主体とし、日本製とみられる特殊な三角縁変形神獸鏡や、彌

生時代の銅鐸に通じる文様をもつ人馬獸文鏡が含まれます。また、鉄製品は鉄刀三口、鉄劍五口、鉄槍一口、鉄刀子一口、鉄鎌五本、鉄鉈一本からなります。これらは大和政権の成立を考え上で注目され、本年六月重要文化財に指定されました。なお、これらの鉄製品や鏡を含む出土品は、括して平成十年度から十三年度にかけて保存修理が行われました。修理の結果、鉄製品はこれまで不明確であった形態や員数が明らかになり、また鏡は今までとは見違えるぐらいに鮮明な文様が見られるようになります。



流雲文縁方格規矩鏡 (天神山古墳出土)

特集展示 阿弥陀信仰の影像 (7/23~)

今回の特集展示のテーマは、私たちにとって最もなじみ深いほとけの一つ、阿弥陀如来です。西方極楽浄土で瞑想・説法する姿、信者の臨終時に来迎する際の姿をあらわした像はもちろん、密教式の宝冠阿弥陀、衣をまとわない裸阿弥陀、靈像として名高い信濃善光寺本尊を模した阿弥陀像など、珍しい形式の像も紹介します。また来迎の様子を再現する儀式で用いられた仮面なども展示します。この機会にぜひ、人々の浄土に対する強いあこがれが結晶した名作の数々をご鑑賞下さい。

特集展示 重要文化財指定記念 奈良県天神山古墳出土品 (9/10~)

今回、奈良県天理市所在の天神山古墳出土品（館蔵品）が重要文化財に指定されたのを記念して、その全容を公開します。大和朝廷の成立を考える上に重要な鏡や、今回の修理で実態が明らかになった鉄製品などを展示します。

●公開講座●

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 8月10日(土) 「石山寺の聖教」 | 東京大学文学部助教授 月本 雅幸 |
| 8月24日(土) 「石山寺の歴史と文化財」 | 奈良文化財研究所歴史研究室長 綾村 宏 |
| 9月 7日(土) 「石山寺縁起絵巻について」 | 富山県立大学工学部助教授 原口志津子 |
| 9月22日(日) 第1講「西大寺と称徳天皇・道鏡」 | 東京大学文学部教授 佐藤 信 |
| 第2講「西大寺所蔵資料と北浦定政」 | |
| | 奈良文化財研究所歴史研究室長 綾村 宏 |
| 9月29日(日) 第1講「西大寺と秋篠寺」 | 東京大学史料編纂所教授 石上 英一 |
| 第2講「西大寺の建築について」 | 東京大学工学部助教授 藤井 恵介 |

※13時30分から15時まで。

9月22日・29日は、第1講は13時30分～14時15分。 第2講は14時25分～15時10分。 講堂にて。 聽講は無料。 定員は各回200名の先着順。

●「親と子の文化財教室 「奈良時代の歴史と美術」 受講者募集●

- | | |
|------------------|---------------------|
| 7月13日(土) 奈良時代の寺院 | 佛教美術資料研究センター長 井口 喜晴 |
| 8月10日(土) 奈良時代の彫刻 | 佛教美術研究室長 松浦 正昭 |
| 後期予定 | |
| 9月 7日(土) 世界遺産の寺院 | 企画室長 岩田 茂樹 |
| -東大寺を訪ねて-(現地見学) | 主任研究員 稲本 泰生 |

※小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。

※はがきに、「親と子の文化財教室参加申込」と記入の上、氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望される月日(いくつでもかまいません)を必ず記入して、教育室までお申し込みください。

(FAX可 0742-22-7221)

※当館講堂において10時から12時までおこないます。

※後期(9月から12月までの第2土曜日)の募集を受け付けています。

●ボランティアによる解説●

ボランティアによる解説を、開館日の10:00～13:00、13:30～16:30の時間帯に展示室でおこなっています。20名以上の団体の場合は、事前にご相談のうえ、ご予約をお願いします。

ご予約・お問い合わせ先： 教育室 宮田(電話0742-22-7008)

●ギャラリートーク●

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| 8月14日(水)「石山寺の影像」 | 企画室長 岩田 茂樹 |
| 9月11日(水)「奈良県天神山古墳出土品について」 | 佛教美術資料研究センター長 井口 喜晴 |
| 仏教美術資料研究センター長 井口 喜晴 | |
| ※いずれも14時から、展示室にて。入館者の聽講自由。 | |

●展覧会日程●

	7 月	8 月	9 月
本 館	東大寺のすべて(～7/7) 休館(7/8～7/22) 平常展〔彫刻〕(7/23～)		
西 新 館	東大寺のすべて(～7/7) 休館(7/8～7/22) 平常展〔工芸・考古〕(7/23～10/6)	観音のみてら 石山寺(8/9～9/8)	平常展〔絵画・書跡〕(9/14～10/6)
東 新 館	東大寺のすべて(～7/7) 休館(7/8～8/8)	観音のみてら 石山寺(8/9～9/8)	休館(9/9～9/13) 西大寺古絵図は語る(9/14～10/6)

展示品の見どころ

いしやまでらえんぎえまき 石山寺縁起絵巻

重要文化財
鎌倉・室町・江戸時代 石山寺
7巻 各縦約34cm



鎌倉時代には、各地の寺院や神社で、それぞれの創建の由來や本尊のご利益などの説話を集成した、縁起絵巻がさかんに製作された。石山寺の場合も、正中年間(1323~26)に、本尊の觀音の変化身の数にちなんだ三十三段からなる縁起絵巻が計画され、まず詞の撰述はなったものの、絵巻の製作はかならずしも順調に進まなかったようである。現存の全七巻は、詞書・絵の両方の作風から、第一・二・三の三巻、第四巻、第五巻、第六・七の二巻の四群に分かれ。ここでは絵に限って見ると、第一の群(掲出の図は、そのうち第一巻の第三段で、石山寺建立時に敷地から宝鐸が出土したという話を描く)は、延慶二年(1309)の「春日権現驗記絵巻」(宮内庁三の丸尚蔵館所蔵)に代表される、鎌倉時代後期に宮廷画所絵師の高階隆兼によって確立された大和絵の一様式を示すものであり、おそらく最初の正中頃の作とみなされよう。平安時代の「信貴山縁

起絵巻」に見られるような、説話画系の大和絵の生き生きとした線描による人物描写の伝統を正しく継承し、各部分を鮮麗に塗り分ける彩色を伴って、端正な、しかし見ようによつては、いささか窮屈でうるおいに乏しいところもなきはない画風である。ただし、「春日権現驗記」にくらべると若干形式的な固さが受けられるので、隆兼自身の手になるのではなく、弟子あたりの作かと推測される。この一群のほか、第五巻はそれよりやや降る頃の、すこし系統を異にする絵師の作、第四巻は室町時代の土佐光信の作と考えられ、そして第六・七巻は江戸時代の谷文晁の作であることがはっきりしている。このように時代や画系は様々ながら、全体としての調和を乱すことなくできあがっている絵巻の美しい現状は、世々変わらぬ石山寺に対する信仰そのものの姿ともいえよう。

(美術室長 中島 博)

■開館時間 9時30分~17時(毎週金曜日および8月15日(木)は19時まで)
※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日 月曜日(ただし8月12日、9月16日・23日(月)は開館、
9月17日・24日(火)は休館)

■観覧料金

	大人	大学・高校生	
平常展	一般 420円	130円	
	団体 210円	70円	
特別展	大人	大学・高校生	中学・小学生
	一般 830円	450円	250円
	団体 560円	250円	130円

*団体は責任者が引率する20名以上。

*「觀音のみでらえんぎえまき」開催中でも、本館のみ観覧のかたは、平常展料金で入館できます。
*特別陳列及び特集展示は、平常展料金でご覧いただけます。



[交通案内]近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(90円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の企画室にお申し込みください。

 奈良国立博物館
Nara National Museum